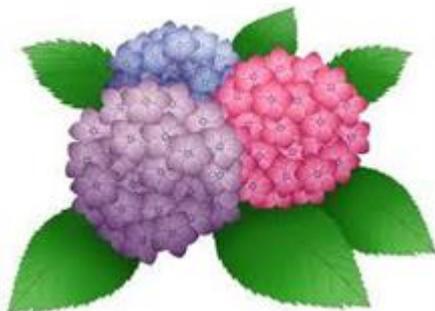




別所だより

横浜市立別所小学校

令和5年5月22日発行



気持ちを込めて挨拶を

校長 大島 宏二

新学期が始まって1か月半。いつの間にこんなに日脚が伸びたのかと思うくらい日の暮れるのが遅くなりました。まもなく紫陽花が色付く季節、梅雨が始まります。

着任して1か月余り、朝、正門で登校を待ち受けたり、校内ですれ違ったりする際、子どもたちから会釈は受けるものの、元気な挨拶が少ないことを残念に思っていました。また、同様の思いを日々登下校を見守ってくださる学援隊の皆様や学校運営協議会の委員方から耳にしたこともあり、先日4年ぶりに体育館で行った全校での朝会で、挨拶の話をすることにしました。

「今一番、朝の挨拶ができているのは1年生です。『明るく』『大きな声で』『元気に』『笑顔で』挨拶をしてくれる1年生が多く、中には『校長先生、おはようございます!』と名前を入れて挨拶をしてくれる人もいます。また、中学年の皆さんの中には、私の前まで歩いて来て立ち止まると、両手を前に組んで丁寧にお辞儀をする人もいて、とても嬉しかったです。」と伝えました。歩きながら挨拶を交わし合うことは、とても自然なことです。そこをあえて挨拶をするために立ち止まり、1対1で対面して丁寧に挨拶を交わすと、相手を大切に思う気持ちが伝わることを理解した子どもたち。早速登朝から実践できるところが、別所小の子どもたちの素直なところです。

本校では、今年度も引き続き、生活指導の重点に「挨拶」を据え、自分から進んで挨拶できる子の育成を目指してまいります。「元気な声で」「明るい笑顔で」「相手の目を見て」

「自分から進んで」「地域の方にも」……、学年に応じて、また、子どもによってその取組のスタートラインは異なります。ただ、いずれも“相手への思い”が大切なポイントとなるのではないのでしょうか。

心のこもった、気持ちを込めた挨拶がもっともっと多くの子どもたちに広がり、習慣化されてくることを願い、まずは職員がその姿を見せていきたいと考えています。

